



バニラ検品、
検量作業中。
バニラってこ
んな姿をして
るんですね。

農業省の仕事って

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

前号では、農業省で取り組む野菜苗配布とそのフォローアップ巡回についてご紹介しました。今回は、ボランティアと一緒にいる NCDs（非感染性疾患）対策だけでなく、農業省として日々どのような業務があるのかをお伝えしたいと思います。休日出勤や残業は稀、有休消化制度は取得率が非常に高く、日本で言うなら、ホワイト企業。定年まで働き続ける人が多い印象です。

月曜と金曜の朝は、各週でスタッフミーティングを実施。金曜日は、オフィス内の清掃や草刈り、花壇の手入れと比較的、外出機会は少ない傾向にあります。

① 鶏巡回：主に農業省のスタッフを中心に、鶏の雛が配布されています。野菜苗と同様、巡回して雌雄数やサイズ等、



赴任直後と少し前の写真ですが、鶏雛を配布している様子。

鶏の成育状態を確認します。さすが農業省勤務、皆上手に育てています。

②賞味期限調査：今年度の実施はありませんでしたが、スタッフが手分けして、島内の商店を回り、賞味期限切れの食品はないか抜き打ち検査を行います。

③バニラの検量および記録：6月末から8月にかけての毎週木曜、出荷担当の会社スタッフと共に、収穫されたバニラの検量と台帳記載を手伝います。

④スタッフ内研修の参加：私が赴任してからも、首都スタッフが講師として訪れ、野菜栽培、農作物調査のソフトウェア、ビャクダンの木の管理制度等とスタッフ間だけでも多くの研修が開催されています。スタッフの知識向上は業務遂行においても大切。今となっては遅いですが、JICA ボランティアが農業省スタッフ向けに NCDs 対策の必要性やどのような改善方法があるのか、具体的な実践方法を交えた講習会を開いてみるのも効果的だったかもしれません。

他にも、年に1度の農業祭運営、農作物関連のサポーターングレターの作成等、農作物や食品関連の問い合わせに随時対応するスタッフ。これまでの活動で自分なりにしっかりトンガの食生活を見てきたからこそ、生活に必要な「食」を支える仕事も、今ではとても魅力的だと感じるようになりました。

社内研修、
Plant Health
Clinic。
スタッフ内研
修の充実は、
活動のアイ
ディアの参
考となり、
勉強になり
ます。

